

1. 日本側参加研究者の体制

①採択年度（和暦）	平成 2 8	年度	②採択期間 （通常A型は5年間、B型は3年間）	5	年間 （1年未満は 切上げ）	③事業の型 （AまたはBを記入）	A	型
④日本側拠点機関名（和文）	東京大学							
⑤コーディネーター部局名・職名・氏名（和文）	大学院理学系研究科・教授・杉田 精司							
⑥日本側協力機関名（和文）	宇宙航空研究開発機構							
	国立天文台							
	名古屋大学							
	北海道大学							
	東北大学							
	大阪大学							
	会津大学							
	千葉工業大学							
	神戸大学							
	九州大学							
	立教大学							
	東京工業大学							
総合研究大学院大学								
⑦参加研究者数内訳	教授級 以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2－4記載の 参加資格のない者	合計	第三国所属の研究者 （内数）	
拠点機関	11	11	6	38	0	66	0	
協力機関・協力研究者	15	45	36	25	0	121	2	
合計	26	56	42	63	0	187	2	
⑧手引2－4記載の参加資格のない者の内訳								
所属・職	専門分野			研究交流での役割				
該当なし								

⑨「第三国所属の研究者」内訳（平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）

所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	日本側参加者として一体的な協力体制を確保する方法
オランダ・オランダ宇宙研究所・研究員	系外惑星	日本側拠点機関に所属経験があることから、系外惑星の大気モデルに関する共同研究を欧州の交流相手国と円滑に実施する上で日本側拠点機関にとってのメリットが大きい。	頻繁に日本語で電子メールやSkype等で連絡を取り合うことで、日本側参加研究者として一体的な協力体制を確保する。
スペイン・グランカナリア天文台・研究員	惑星科学	H31年度3月まで日本側拠点機関に所属しており、米国側拠点機関への留学経験もある。はやぶさ2探査機およびOSIRIS-REx探査機の相互比較校正の橋渡し役として重要な役割が期待されるため、日本側拠点機関にとってのメリットが大きい	はやぶさ2探査データ解析チームの一員として週例会へSkype参加する。これにより、日本側参加研究者として今後とも一体的な協力関係を保持しつつ研究を推進する。

2. 経費

事業の型 A 型			
①当該年度の本事業による経費の支出			
経費内訳		金 額 (単位:円)	備 考
研究 交 流 経 費	国内旅費※1	1,981,060	
	外国旅費※1	7,428,283	
	謝金	0	
	備品・消耗品購入費	60,065	
	その他経費	2,451,983	
	不課税取引・非課税取引に係る消費税※2	698,419	
	計	12,619,810	
業務委託手数料		1,261,981	研究交流経費の10%（1円未満切捨）。消費税額は内額とする。
合計		13,881,791	

※1「国内旅費」「外国旅費」の合計が、研究交流経費支出額の50%を超えていない場合、備考欄にエラーが出ます。

※2 受託機関における課税、非課税（免税）の区分に応じ対象額を算定のこと。受託機関で負担の場合はその旨、備考欄に記載すること。

②研究交流経費（総額）の30%に相当する額を超える各経費費目の増減があった場合の説明事由（該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）

該当なし

③ 日本側参加研究者の旅費	日本側参加研究者のうち、 所属機関が日本である者の旅費の総額（単位：千円）		8,463		
	日本側参加研究者のうち、 所属機関が日本以外である者の旅費の総額（単位：千円）		日本→日本以外の渡航		
			日本以外→日本の渡航		945
			日本以外→日本以外の渡航		
④ （相手国側参加研究者の旅費の総額） （単位：千円） （千円未満切捨て）	日本または相手国→日本の渡航		（単位：千円） （左記のうち、第三国参加研究者の旅費の総額） （千円未満切捨て） （第三国所属の相手国側）	日本または相手国→日本の渡航	
	日本又は相手国→相手国の渡航			日本又は相手国→相手国の渡航	
	日本または相手国→第三国の渡航			日本または相手国→第三国の渡航	
	第三国→日本の渡航			第三国→日本の渡航	
	第三国→相手国の渡航			第三国→相手国の渡航	
	第三国→第三国の渡航			第三国→第三国の渡航	

※旅費は、往復の金額で記載すること（例：第三国から日本に渡航の場合、第三国→日本→第三国の往復の渡航費を「第三国→日本の渡航」の欄に記載）。

經由国がある場合は、日本側拠点機関の規定等に基づき、旅費の分類・切り分けを行い、記入すること。

⑤（B型のみ）中国・韓国・シンガポール・台湾側参加者の外国旅費がある場合（交流経費の5%以内。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）

総額（単位：千円）	手引2-6記載の要件を満たす旨の事由説明

⑥相手国マッチングファンド(=相手国側拠点機関が本研究課題に使用した研究交流経費)（単位：千円、千円未満切捨て）

全相手国のマッチングファンド総額	相手国拠点機関数	相手国拠点機関のマッチングファンド平均
12,015	4	3,003

3. 共同研究・セミナー

事業の型 A 型							
①共同研究							○
共同研究 整理番号	共同研究課題名（和文）	日本側代表者氏名・所属・職名	1年目	2年目	3年目	A型のみ	
						4年目	5年目
R 1	国際連携小惑星探査による初期太陽系内における揮発性物質の進化過程の調査	杉田精司・東京大学・教授	○	○	○	○	
R 2	系外惑星系の多様性の探究	須藤靖・東京大学・教授	○	○	○	○	
R 3	初期惑星系における物質の起源と循環：太陽系科学および系外惑星科学の相乗効果	生駒大洋・東京大学・准教授	○	○	○	○	
共同研究の実施状況（当該年度実施の共同研究について、共同研究整理番号毎に、特筆すべき成果、相手国側拠点機関との主体的な取り組み及び今後の研究への波及効果、研究協力体制の構築状況等について記載すること。また、手引 6－3 変更事例 No.2 にあたる変更の場合は、変更事由も記載すること。）							
R1: 2019年4月にはフランスとスイスの拠点機関であるニース天文台と PlanetS の Patrick Michel 教授と Martin Jtzi 教授および米国の PSI の D. Domingue 博士を東京大学に迎え、小惑星リュウグウとベヌーの表面地質解析の議論を行った。7月には、米国拠点機関のアリゾナ大学の D.N. DellaGiustina 博士と NASA の S. Messenger 博士を北大に迎えて、表面スペクトルの議論を行った。これらの機会には東大と北大の大学院生が議論に加わり、多くの共同研究テーマの発掘ができた。2019年8月に米国協力機関であるブラウン大学に4週間滞在し、日本の「はやぶさ2」と米国の OSIRIS-REx 探査の共同データ解析、分光計測実験およびセミナーを行った。この共同研究の結果、Nature Astronomy に日米で1本ずつの姉妹論文を同時投稿することができた。新型コロナウイルス感染症の蔓延で翌年度に繰り越した経費を用いて、2021年2月の第3国（スペイン）からの研究者渡航と3月の米国渡航を実現した。これによって、両探査機の光学観測装置の相互校正とリターンサンプルの共同計測の枠組みを作るという大きな成果をあげることができた。 R2: 2019年6月に相手国側拠点機関である、ポルドー大学とベルン大学に学生一名とともにそれぞれ約1週間滞在し、共同研究に関する議論、およびセミナーを行った。特にポルドー大学においては、現在そこの博士研究員である小玉貴則氏との共同研究について集中的な議論を行った。その成果は、11月末に査読論文として投稿することができ、現在査読結果をもとに改訂作業中である。この論文は、本事業に参加している北海道大学、神戸大学の研究協力者もまた共著者であり、本事業が中心的な役割を果たした。また、ポルドー大学のルコント教授との議論を通じて、彼に10月に開催した沖縄の国際会議の組織委員および招待講演者として参加してもらうことができた。ベルン大学では、特に複数惑星系のカオスの軌道不安定性の研究を行っているルルー博士と議論し、執筆中であった論文に関する有益なコメントをもらった。その論文は、2020年3月に査読論文として出版された。 R3: 2019年9月に相手国（スイス）側拠点機関 PlanetS 内のチューリッヒ大学に大学院生一名が約1ヶ月間滞在し、Ravit Helled 博士と昨年度から始めた太陽系内および系外の巨大ガス惑星の内部構造と起源に関する研究を仕上げ、論文として国際学術雑誌に発表した。また、研究代表者は12月上旬にチューリッヒ大学を訪問し、セミナーおよびさらなる共同研究に関する議論を行った。他方、相手国（フランス）側拠点機関であるコートダジュール天文台の Tristan Guillot 博士が、JSPS 外国人招聘プログラムを利用して、8月末から研究代表者の研究グループに滞在している。これは、本研究拠点形成事業での惑星内部構造と惑星形成に関する共同研究から発展したものである。さらに、沖縄での国際会議後、相手国側からの参加者が東京大学に1週間程度滞在し、主に太陽系外惑星の大気の特徴づけに関する共同研究の打ち合わせを行った。							
②セミナー（当該年度開催分について、記載。適宜、行を加除すること。）							
セミナー	セミナー名（和文）	セミナー名（英文）	開催地（国名・都府県・会場）	開催期間（開催日から開催日まで（日数））			
S 1	日本学術振興会研究拠点形成事業「太陽系から宇宙まで」	From Our Solar System to the Universe	日本・仙北市・角館温泉花葉館	2019年8月23日-2019年8月26日 (4日間)			
S 2	日本学術振興会研究拠点形成事業「惑星大気とハビタビリティ：原始惑星系円盤から惑星系形成を通じた総合理解」	From Protoplanetary Disks through Planetary System Architecture to Planetary Atmospheres and Habitability	日本・沖縄県名護市・万国津梁館	2019年10月14日-2019年10月18日 (5日間)			
S 3	日本学術振興会研究拠点形成事業「はやぶさ2と OSIRIS-REx 時代の小惑星サイエンス」	Asteroid Science in the Age of Hayabusa2 and OSIRIS-REx	アメリカ・ツーソン市・アリゾナ州立大学	2019年11月5日-2019年11月7日 (3日間)			
セミナーの開催状況（当該年度開催のセミナーについて、セミナー整理番号毎に、参加者数（総数、参加国名ごとの参加人数（本事業経費による負担の有無を問わない）、交流を通じて得られた研究成果の発表・評価・とりまとめの状況、相手国とのネットワーク形成、若手の育成等の効果等について記載すること。また、手引 6－3「軽微な変更の事例」の変更事項 No.2 にあたる変更の場合は、変更事由も記載すること。）							
S 1	カリフォルニア工科大学のパチギン教授、ウィスコンシン大学のブラディー教授、アリゾナ州立大学のババスチャティ教授の3名を講師として招聘し、惑星系の形成と進化、重力波検出の現状と展望、宇宙磁場と宇宙ひもに関する講義をお願いした。参加者は54名（日本側50名）、大学院学生からも活発な質疑応答がなされた。このセミナーの後には、東京大学で惑星系に関するサテライトワークショップを開催し、本事業の参加研究者も数多く参加し、今後の共同研究の様々な可能性も含めて有益な議論がなされた。						
S 2	沖縄県名護市万国津梁館サミットホールにて、原始惑星系円盤から惑星大気・気候に至る惑星・惑星系の形成・進化に関する総合的かつ最新の知見に関する共有およびネットワーク形成を目指した国際ワークショップを開催した。国内外の研究者総勢103名（イギリス11名、スイス7名、スペイン6名、中国6名、フランス4名、アメリカ3名、カナダ3名、オランダ2名、ブラジル1名、オーストリア1名、台湾1名、日本58名）が参加した。相手国および周辺国から著名な研究者が多く参加し、日本側若手研究者との活発な議論を通して、今後の共同研究およびさらなるネットワーク形成につながる十分な研究交流ができた。						
S 3	アリゾナ大学において、小惑星科学の国際ワークショップを開催した。日本の「はやぶさ2」探査機と米国の OSIRIS-REx 探査機による最新成果を中心として、探査機、望遠鏡観測、物質分析、理論計算など様々な手法から得られる知見をもとに太陽系進化の議論を行った。国内外から161人の研究者（日38名、米88名、独11名、仏11名、伊9名、カナダ2名、スペイン2名）の参加があった。さらに、日本（NHK）と米国（PBS）のテレビ局取材撮影という異例の事態ともなり、大きな盛り上がりを見せた。「はやぶさ2」と OSIRIS-REx のデータの多角的かつ詳細な比較がなされ、今後の研究に関する多くの共同研究に繋がる研究交流が実現した。						
③当該年度に第三国でのセミナー開催があった場合、本事業の位置づけ、第三国で開催する経済的かつ合理的な理由、そして相手国側拠点との開催経費の分担状況（セミナー整理番号毎に記入すること。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。手引 2－7（7）参照のこと。）							
該当なし							
④当該年度に開催のセミナーで、参加研究者以外の者に本事業経費を使って基調講演を依頼した場合、日本側拠点機関にとってのメリット（セミナー整理番号毎に記入すること。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。手引 4－4（1）①参照のこと。）							
該当なし							

4. 研究交流状況

事業の型 A 型								
①日本→海外の渡航数（本事業経費による渡航）（適宜、行を加除すること。）								
国名（派遣元） 第三国は、国名の後に（第三国）と記載すること。		教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2～4記載の 参加資格のない者・ その他	合計	うち、31日以上 の渡航数（該当の場合のみ） 役職ごとの内訳も（ ）書きで併記のこと。 記入例：4（教授級以上1、大学院生3）
1	アメリカ	2	1	3	7		13	
2	スイス	1			2		3	
3	フランス	1	2		1		4	
4	ドイツ		1				1	
計		4	4	3	10	0	21	
第三国への渡航がある場合は、各渡航について、手引4～4（1）①記載の要件を（B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2～6記載の要件も）満たす旨の事由説明 （適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）								
該当なし								

②海外→日本の渡航数（本事業経費による渡航）（適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）								
国名（派遣元） 第三国は、国名の後に（第三国）と記載すること。		教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2～4記載の 参加資格のない者・ その他	合計	うち、31日以上 の渡航数（該当の場合のみ） 役職ごとの内訳も（ ）書きで併記のこと。 記入例：4（教授級以上1、大学院生3）
1	オランダ（第三国）			2			2	
2	スペイン（第三国）			2			2	
計		0	0	4	0	0	4	
第三国からの渡航がある場合は、各渡航について、手引4～4（1）①記載の要件を（B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2～6記載の要件も）満たす旨の事由説明 （適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）								
日本側の第三国参加研究者が本事業による研究成果を広く発表することを目的とした学会出席をするため、および来日して研究打ち合わせを行うため（オランダからの来日：2回、スペインからの来日：2回）								

③日本以外→日本以外の渡航数（本事業経費による渡航）（適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）									
国名（派遣元）		国名（派遣先）	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2～4記載の 参加資格のない者・ その他	合計	うち、31日以上 の渡航数（該当の場合のみ） 役職ごとの内訳も（ ）書きで併記のこと。 記入例：4（教授級以上1、大学院生3）
1	該当なし							0	
計			0	0	0	0	0	0	
各渡航について、手引4～4（1）①記載の要件を（B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2～6記載の要件も）満たす旨の事由説明（適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）									
該当なし									

④海外→日本の渡航数（相手国側経費による渡航）（適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）							
国名（派遣元）		教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2～4記載の参加資格のない者・ その他	合計
1	米国	11	1				12
2	フランス	2			1		3
3	スイス	3					3
4	ドイツ	1	5				6
計		17	6	0	1	0	24

⑤日本→海外の渡航数（相手国経費による渡航）（適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）							
国名（派遣先）		教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2～4記載の参加資格のない者・ その他	合計
1	該当なし						0
計		0	0	0	0	0	0

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名（和文）	アメリカ合衆国
②拠点機関名（和文および英文）	
和文：アリゾナ大学 英文：The University of Arizona	
③コーディネーター所 属部局・職名・氏名 （英文）	Lunar and Planetary Laboratory・Professor・LAURETTA Dante
④協力機関名（和文および英文）（行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）	
和文：ジョンズ・ホプキンス大学 英文：Johns Hopkins University	
和文：ブラウン大学 英文：Brown University	
和文：プリンストン大学 英文：Princeton University	
和文：アメリカ航空宇宙局 英文：National Aeronautics and Space Administration (NASA)	
和文：惑星科学研究所 英文：Planetary Science Institute	

⑤参加研究者数内訳	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者（内数）
拠点機関	1	2	1	0	0	4	
協力機関・協力研究者	7	10	13	0	0	30	
合計	8	12	14	0	0	34	
⑥「その他」内訳							
所属・職名（専門分野）			研究交流での役割				
A型のため該当なし							
⑦「第三国所属の研究者」内訳							
所属機関所在国・所属・職		専門分野	日本側拠点機関へのメリット			研究交流に不可欠な理由	
A型のため該当なし							

⑧相手国側の経費負担 負担した：○（ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと） 負担なし：× 当該年度実施なし：－		⑨相手国のマッチングファンド（＝相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費）（適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。）			※参考： 日本側研究交流経費		
		支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 （単位：千円）	換算レート日 （例：2020/9/12）	相手国 通貨名	換算レート（外貨1単位に 相当する円貨額）
A型のみ：パターン種別 パターン1か2を記入すること	1						
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	×						
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	◎	NASA（アメリカ航空 宇宙局）	NASA New Frontiers	3,270	2019/11/1	米ドル	109
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	○	NASA（アメリカ航空 宇宙局）	NASA New Frontiers	1,308	2019/11/1	米ドル	109
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	×						
(5)相手国側研究者の研究経費	×						
(6)相手国開催のセミナー開催経費	○	NASA（アメリカ航空 宇宙局）	NASA New Frontiers	2,725	2019/11/1	米ドル	109
(7)第三国開催のセミナー開催経費（日本側拠 点機関と分担の場合は△と記入のこと）		合計		7,303			

※日本側で独自に用意した資金（学長裁量経費や本事業以外の資金）を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません（EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います）。

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名（和文）	スイス連邦
②拠点機関名（和文および英文）	
和文：プラネットエス（ベルン大学） 英文：PlanetS (University of Bern)	
③コーディネーター所 属部局・職名・氏名 （英文）	Physics Institute, Professor, BENZ Willy
④協力機関名（和文および英文）（行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）	
和文：ジュネーブ大学 英文：University of Geneva	
和文：チューリッヒ大学 英文：University of Zurich	
和文：スイス連邦工科大学 英文：Swiss Federal Institute of Technology (ETH)	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者（内数）
拠点機関	1	2	0	0	0	3	
協力機関・協力研究者	6	3	2	0	0	11	
合計	7	5	2	0	0	14	
⑥「その他」内訳							
所属・職名（専門分野）			研究交流での役割				
A型のため該当なし							
⑦「第三国所属の研究者」内訳							
所属機関所在国・所属・職		専門分野	日本側拠点機関へのメリット			研究交流に不可欠な理由	
A型のため該当なし							

⑧相手国側の経費負担 負担した：○（ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと） 負担なし：× 当該年度実施なし：－		⑨相手国のマッチングファンド（＝相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費）（適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。）			※参考： 日本側研究交流経費		
					¥12,619,810		
		支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 （単位：千円）	換算レート日 （例:2020/9/12）	相手国 通貨名	換算レート（外貨1単位に 相当する円貨額）
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること	1						
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	×						
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	◎	PlanetS	NCCR PlanetS, Origin, Evolution and Characterisation of Planets	280	2019/4/7	スイスフラン	112
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	○	PlanetS	NCCR PlanetS, Origin, Evolution and Characterisation of Planets	112	2019/4/7	スイスフラン	112
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	×						
(5)相手国側研究者の研究経費	×						
(6)相手国開催のセミナー開催経費	×						
(7)第三国開催のセミナー開催経費（日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと）		合計		392			

※日本側で独自に用意した資金（学長裁量経費や本事業以外の資金）を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名 (和文)	フランス
②拠点機関名 (和文および英文)	
和文：コートダジュール天文台 英文：Observatory of Côte d'Azur	
③コーディネーター所属 局・職名・氏名 (英文)	Lagrange Laboratory, Senior Researcher, MICHEL Patrick
④協力機関名 (和文および英文)	
和文：パリ第11大学 英文：University of Paris-Sud	

⑤参加研究者数内訳	教授級 以上	助教・准教授等	ポスドク等若手 研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者 (内数)
拠点機関	3	1	2	0	0	6	
協力機関・協力研究者	6	4	1	0	0	11	
合計	9	5	3	0	0	17	
⑥「その他」内訳							
所属・職名 (専門分野)			研究交流での役割				
A型のため該当なし							
⑦「第三国所属の研究者」内訳							
所属機関所在国・所属・職		専門分野	日本側拠点機関へのメリット			研究交流に不可欠な理由	
A型のため該当なし							

⑧相手国側の経費負担 負担した：○ (ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし：× 当該年度実施なし：－		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)		※参考： 日本側研究交流経費 ¥12,619,810			
		支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位：千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国 通貨名	換算レート (外貨1単位に 相当する円貨額)
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること	1						
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	×						
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	◎	CNES(National Center for Space	Hayabusa2 partipation	900	2020/9/12	ユーロ	120
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	○	CNES(National Center for Space	Hayabusa2 partipation	540	2020/9/12	ユーロ	120
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	×						
(5)相手国側研究者の研究経費	×						
(6)相手国開催のセミナー開催経費	×						
(7)第三国開催のセミナー開催経費 (日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)		合計		1,440			

※日本側で独自に用意した資金 (学長裁量経費や本事業以外の資金) を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

5. 交流相手国

事業の型 A 型							
①相手国名（和文）	ドイツ連邦共和国						
②拠点機関名（和文および英文）							
和文：ドイツ航空宇宙センター 英文：German Aerospace Center							
③コーディネーター所 属部局・職名・氏名 （英文）	Institute of Planetary Research, Professor, JAUMANN Ralph						
④協力機関名（和文および英文）（行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）							
なし							
⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級 以上	助教・准教授等	ポストドク等若手 研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者（内数）
拠点機関	4	4	0	0	0	8	
協力機関・協力研究者	3	2	0	0	0	5	
合計	7	6	0	0	0	13	
⑥「その他」内訳							
所属・職名（専門分野）			研究交流での役割				
A型のため該当なし							
⑦「第三国所属の研究者」内訳							
所属機関所在国・所属・職		専門分野	日本側拠点機関へのメリット			研究交流に不可欠な理由	
A型のため該当なし							

⑧相手国側の経費負担 負担した：○（ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと） 負担なし：× 当該年度実施なし：－		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費)（適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。）			※参考： 日本側研究交流経費		
					¥12,619,810		
		支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位：千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国 通貨名	換算レート（外貨1単位に 相当する円貨額）
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること	1						
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	×						
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	◎	ドイツ航空宇宙局	DLR Programmatics・Space Research	1,800	2020/9/12	ユーロ	120
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	○	ドイツ航空宇宙局	DLR Programmatics・Space Research	1,080	2020/9/12	ユーロ	120
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	×						
(5)相手国側研究者の研究経費	×						
(6)相手国開催のセミナー開催経費	×						
(7)第三国開催のセミナー開催経費（日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと）		合計		2,880			

※日本側で独自に用意した資金（学長裁量経費や本事業以外の資金）を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。